

キャリア教育だより 第4号

発行元：相模原市教育委員会キャリア教育推進チーム / 令和5年8月発行

第1回相模原市キャリア教育推進委員会(令和5年5月24日)の様子

～筑波大学 藤田晃之教授・青山学院大学 原晋教授のお話より～

キャリア教育だより第3号にて5月24日(水)に開催された「第1回相模原市キャリア教育推進委員会」について紹介させていただきました。今回は筑波大学の藤田教授や青山学院大学の原教授からいただいた貴重なお話について詳しくお伝えいたします。今後の相模原市におけるキャリア教育の道標となる内容です。目の前の児童生徒とどのように関わり、組織的にキャリアの力をどのように育てていくか、先生方のヒントになれば幸いです。



筑波大学 藤田教授



キャリア教育推進委員会の様子



青山学院大学 原教授

キャリア教育において、**理念を共有する**ということが非常に重要である。目の前にいる子どもたちをどう育てていくかということを経験することによって、キャリア教育は前進する。企業側からすれば、自分が協力している学校においてどのような子どもを育てたいかというキャリア教育の目標を理解し、PDCAをまわしていくことでキャリア教育は前に進み、理解は深まると考えている。

相模原は、**日本を代表するキャリア教育の推進地域**だと感じた。キャリア教育に関わりのある多くの方々が、一同に会してこれだけの時間をかけて議論をしているということに敬意を表する。**付けた力をどのように身に付けさせるか**ということを考える上で、**PDCAは重要になる**。目標を立てたが、立てっぱなしではなく、**きちんと見直して、どのくらい身に付けるべき力が身に付いたか**ということを見直すことが重要である。育てたい姿に主語をつけて、語尾を上げれば、効果を検証できる発問になるかどうかを確かめる必要がある。**具体的な行動目標を作る**ことはとても重要である。(〇不得意なことにも進んで取り組むことができる。)
×生き生きと光り輝く子ども

相模原市のキャリア教育は、一人の先生の個の力を利用するのではなく、**経済界等の各関係機関を巻き込んで皆で推し進めていく**、**日本でも最先端をいく教育**だと感じる。スタンダードを基にしつつも、各学校の実態に応じてPDCAサイクルを回すという考え方になっているところが非常によいと感じる。一つの学校の取組が事例として大きく膨れ上がり、それを学びとして**その他の学校が取り入れていく**という動きになっていることは評価できる。次の過程としては、SDCAサイクル(①Standardize・標準化②Do・実行③Check・検証④Act・改善)におけるスタンダードを作り、スタンダードが定着した後はそれを継続していくという好循環を生み出していけるとよい。キャリア・パスポートについては、**金太郎飴集団を育てるためのもの**ではなく、**それぞれの個性を伸ばしていくためのもの**である。キャリア教育の理念は、**学校や地域、関係機関で繋がっていかねばいけない**ことであり、先生方には**児童生徒それぞれのよさを認める指導者**になっていただきたい。

キャリア教育推進委員会で話し合われた内容の詳細は市ホームページに掲載されております。

<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/shisei/1026896/shikumi/1026898/1005653/1028963.html>

